みよし北部小
児童日本語教室

「母音法」で美しい話し方学ぶ

「劇団四季」俳優が伝授

みよし市福谷町の北部小学校（水野裕之校長、児童559人）の6年生児童87人が17日、劇団四季の俳優を講師に「美しい日本語の話し方」を学んだ。水野校長は「具体的で子どもたちにも分かりやすかった。自信をもって大きな声で発言し、授業にも活かしていってほしい」と話している。【岡田さち代】

劇団四季の俳優から母音法を学ぶ児童ら＝17日、みよし・福谷町の北部小で

同校を訪れた「美女と野獣」名古屋公演に出演中の俳優3人は、劇団四季の半世紀を超える歴史で培われてきた独自の方法論「母音法」を通じて、音の分離や、母音の重要性などを実例も交えてわかりやすく紹介。連子音、長音など注意点を伝え、児童らはファミリーミュージカルのテーマ曲「友達はいいもんだ」を歌詞の意味を感じ、相手に思いを伝えることを意識しながら、はっきりした言葉で歌い、実習した。

「美しい日本語の話し方教室」は「こころの劇場」や「クリスマスチャリティ公演」とともに行っている劇団四季の社会貢献活動の一つ。みよし市でも小学生と保護者を対象に「こころの劇場」を2012年に行ったが、「話し方教室」は初めてでみよし市文化センターサンアート施設指定管理者ホーメックス共同事業体主催の劇団四季「ファミリーミュージカル」が縁で企画され、同校で行うことになった。

6年生の木村優さん（12）＝福谷町＝は「幼いころから自然に使ってきた日本語だが、母音など細かいところまで気を付けると変わることが分かった」。国枝凌太君（12）＝福谷町＝は「自分が普段使っている言葉と違っていた。発表する時など母音に気をつけて話したい」。野原直人君（12）＝潮見＝は「これからはっきりした言葉で、きれいな日本語を使っていきたい」と話した。